

地域の困りごとを解決する 経営理念を全うする姿勢



自社の事業だけでなく、地域をまるごと強くしたい。
ネットワークを繋ぎ、行動力で地域の未来を変える。



三浦木材 株式会社

大館市で昭和25年に創業した三浦木材株式会社。木造住宅の設計・施工、建築資材の販売、不動産事業などを手掛けている。代表取締役の三浦功達さんが父の跡を継いだのは13年前の平成24年のことだ。「地域の困りごとを解決する」という経営理念に基づき、地元工務店同士の連携を図るなど、積極的に問題解決に取り組んできた三浦さんにお話を伺った。

代表取締役 三浦 功達

〒017-0031
大館市上代野字上代野5-1
TEL 0186-48-5811
FAX 0186-48-5814
<https://miuramokuzai.com/>



HP



建築資材の卸に加えて 自社でも建築業を手掛ける

昭和25年、三浦製材所として創業。その後、建具製作、製材業を行うようになり、昭和36年に現在の社名になった。代表取締役の三浦さんは、13年前に31歳の若さで3代目に就任した。

「当社は木造住宅の設計・施工、建築資材の販売、不動産という3つの事業を展開しています。従前は製材業と、建築資材の卸が主でした。時代とともに人口減少、少子高齢化が顕著になり、取引先も淘汰されていきました。それを見越して父の代から建築業も手掛けるようになり、今では主な事業となりました」。



スタイリッシュな雰囲気のエントランス。

同業他社だからこそ協力できる 集客や実務的な助け合いを実現

大館の建築事業者の若手後継者が参加する『二世の会』を発足したのは今から10年ほど前。同業他社同士の繋がりが生まれ、共通の課題があること、それに対して地元で協力して対処していこうという共通意識が生まれてきたという。

また、令和元年にZEH住宅展示場「大館暮らすメイト」をオープンさせた。これは人口が減り、市場が縮小していく中で事業を継続させるために、地元工務店同士協力し、共存共栄しなくてはという思いから生まれたアイデアだ。



和と北欧が融合したモデルハウス。

「展示場の『暮らすメイト』という名称には、学校のクラスメイトという意味合いもあります。自分たちの考えに賛同していただける転校生は受け入れようというスタンスです。各社各々モデルハウスを作るより、一箇所に各社のこだわりを込めたモデルハウスを集めた方が集客にも繋がりますよね。展示場の事務局を当社が担い、予約システムの管理も行っています。同じ地域の同業者が手を取り合うのは、集客だけでなく職人の貸し借りなどでもできるメリットがあります。こうした取組が話題となり、全国から視察がやってくる。そこでの交流もまた、新たな情報交換の場になっています」。

過酷な環境下での作業を減らす 来年、北東北の木造建築が変わる

三浦さんが新たに取り組むのは木造建築の省人化、効率化を図るための

木造大型パネルの製造・販売事業だ。新会社「オーダーテック」は、令和8年6月の稼働を目指す。

「前もって大型パネルを工場を組み立てて運ぶことで、現場での作業工数をぐっと減らすことが可能となります。木造住宅の大工さん、職人さんたちはどんどん高齢化していく。一方で夏場の暑さは毎年異常です。猛暑への対策としてもニーズはあると考えています。北東北3県でいえば大館は中心地です。ここで製造することで、北東北3県をカバーできれば。」と三浦さん。

これまで北東北に木造大型パネルの製造工場はなく、建築会社としては全国で初めてとなるため県内外から注目されている。

「2週間ほどかかっていた上棟作業がパネルを使うことで1日程度に圧縮できる。人手不足を解消し、持続可能な地域づくりを支えていきたい。」と三浦さんは力強く意気込みを伝えてくれた。



本社2階のワークスペース。起業した若者たちとの交流も、三浦さんにとっては新たな気付きに。



梁や筋交い以外にも、断熱材やサッシなども組み立てられたパネルを工場に製造。現場での作業が激減。